

《担当者名》上河邊 力

【概要】

人格心理学は、人間の個人差や性格形成のメカニズムを科学的に探求することを目的とした科目である。本授業では、人格理論、性格測定的手法、遺伝と環境の影響、さらには人格と心理的健康との関連について学ぶ。この科目は、臨床心理学におけるクライアントの特性理解や支援計画の策定において重要な基盤を提供する。また、人格理論は心理療法のアプローチを選択・適用する際の指針ともなる。公認心理師養成課程において、本科目は心理アセスメントや介入の実践的スキルを補完する役割を担っている。

【学修目標】

人格心理学の基本理論を理解するために、主要な人格モデルや研究成果について理解する。
 人格評価のスキルを身につけるために、基本的な性格測定法について理解する。
 ビッグファイブ理論やその他の人格モデルを説明し、それぞれの特徴や違いを述べられる。
 性格検査の結果分析、臨床的な文脈での活用法に触れる。
 子ども、青年、成人それぞれの発達段階における人格発達の課題を理解し、臨床現場で活用可能な支援方法を提案できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	人格心理学への導入	シラバスを概観するとともに、ブループリント出題基準との関連を理解する。 人格の定義と人格心理学の歴史について理解する。	上河邊 力
2	類型論と特性論	類型論と特性論について理解する。	上河邊 力
3	精神分析学的な人格理論	フロイトやユングの人格理論について理解する。	上河邊 力
4	学習理論、認知理論的人格理論	観察学習が行動傾向にどのような影響を及ぼすかについて理解する。 原因帰属について理解する。	上河邊 力
5	人間性心理学的・物語論的人格理論	マズローやロジャーズ、フロムによる理論と人格の関連を理解する。	上河邊 力
6	近年の主要な諸理論	5因子説とその発展について理解する。	上河邊 力
7	人格形成の諸理論	人格形成における、遺伝・環境・主体的要因について理解する。	上河邊 力
8	人格の発達	乳幼児期の人格の発達について理解する。	上河邊 力
9	人格の発達	成人期以降の人格の発達について理解する。	上河邊 力
10	対人関係にあらわれる人格	友人関係・恋愛関係、家族や組織内での人間関係と人格との関連について理解する。	上河邊 力
11	人格の認知	対人認知の次元について理解する。 ステレオタイプと自己スキーマについて理解する。	上河邊 力
12	様々な人格特性	人格と感情の関係について理解する。 自尊感情やレジリエンスについて理解する。	上河邊 力
13	人格と犯罪・非行	犯罪・非行と人格の関連について理解する。	上河邊 力
14	人格の病理と健康	適応的な人格と不適応的な人格について理解する。 パーソナリティ障害について理解する。	上河邊 力
15	人格の測定	人格測定における質問紙法・面接法・観察法・投影法について理解する。	上河邊 力

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

定期試験100%

(ただし、常識的な態度で受講し、期末試験受験資格を満たす場合に限る)

【教科書】

小塩 真司『パーソナリティ心理学』サイエンス社
オリジナルの配布資料をGoogle Classroomで配布する

【参考書】

榎本 博明『わかりやすいパーソナリティ心理学』サイエンス社
鈴木 公啓(編)『要説パーソナリティ心理学：性格理解への扉』ナカニシヤ出版
鈴木 公啓, 荒川 歩, 太幡 直也, 友野 隆成『パーソナリティ心理学入門 ストーリーとトピックで学ぶ心の個性』ナカニシヤ出版

【備考】

各学生がすべての講義に出席することを前提に講義を進める。講義に欠席した場合、各自の責任において、その講義で配布された資料の有無を確認し、次の講義までに適切な対応を取ること。また、欠席回数については各自で責任をもって管理すること(欠席回数についての問い合わせには原則応じない)。

- ・ Google Classroomを通じて学習課題を提示する。
- ・ Google Classroomを利用したオンデマンド型授業を行う。
- ・ Google forms等を通じて学生からの質問、意見を収集し、次回の授業で紹介する。
- ・ Mentimeterを通じてアンケートやワークを行う。

この講義は心理学部臨床心理学科の研究協力者プール・クレジットシステムの対象である(詳細については初回講義時にて説明)。

【学修の準備】

各回のシラバスを参考に、配布資料と教科書の関連ページに事前に目を通し予習する(2時間)。
次回講義までに、前回の講義で用いた資料について、参考書などで内容を補完したうえで重要項目を中心に暗記する(2時間)。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得している。
DP3. 社会の様々な分野において、心の問題を評価し、それを適切に判断し援助できる基礎的技能を修得している。
上記、心理学部ディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

公認心理師、臨床心理士

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関(精神科、小児科)や教育機関(小・中学校)における公認心理師としての実務経験を通して得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している